

経営デザイン分科会セッション

◆ IP ランドスケープと DX の成功ファクターと経営デザインシートとの融合 ◆

【概要】

- ▶ 知財情報を経営戦略に結びつける手法として IP ランドスケープ (IPL) が注目されています。また、同じく無形資産であるデータを可視化し、構造化して、デジタル技術により戦略に結びつけ、組織の競争優位性を確立するツールとしてデジタルトランスフォーメーション (DX) が注目されています。
- ▶ しかし、得てして、IPL や DX 自体が目的化し、組織の目指す方向性や、戦略との結びつきが形骸化し、コストと時間を浪費し成果が上がらない状況に陥りがちです。
- ▶ その要因としては、今見えているものを前提に将来を考えてしまう「フォアキャストینگ」の思考で取り組む姿勢があげられます。
- ▶ 5G・AI・IoT 等のデジタル技術によりビジネス環境が大きく変わる中では、すぐに変化する、「見えている現実」や「顕在化している社会課題や顧客ニーズ」、「今の技術制約」等に過度に拘泥せず、まず「未来のあるべき姿」をイメージし、そこから逆算し施策を考える「バックキャストینگ」の思考が重要です。つまり、それを実現するためのツールとして IPL や DX の在り方を考えることが重要です。
- ▶ 「経営デザインシート (KDS)※1」は、「バックキャストینگ」の考え方をベースにしたものであり、IPL や、DX などの戦略策定及び実現プロセス構築の際の思考ツールとして有効です。
- ▶ 本セッションでは、IPL 及び DX の課題と、KDS と結びつけるメリットに関する基調講演とパネルディスカッションで、参加者のみなさまに IPL 及び DX の成功ファクターについての知見を深めていただくことをゴールとします。

※1：経営デザインシートとは？

昨今のめまぐるしい経営環境の変化に対応するため、政府の知的財産戦略本部は、企業内で将来のビジネスモデル構築に向けた検討を推奨しており、2018 年度（本部長：安倍総理/当時）、その検討のためのツールである「経営デザインシート」を発表しました。本分科会は、かかる政策の趣旨を一段と進めるべく、2019 年 8 月に発足し、経営デザインシートの価値及び活用方法等について必要な調査・研究を行いつつ、普及啓発その他「経営デザイン」という考え方を浸透させ、もって、「価値デザイン社会」の推進の一助をなすべく活動を行っています。

「価値デザイン社会」とは、2018 年 6 月、知的財産戦略本部で決定された知的財産戦略ビジョンで掲げられた、わが国の目指すべき姿であり、経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得るような社会です。詳細は首相官邸ホームページをご参照ください (<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/>)。

企画セッション

◆ IP ランドスケープとDXの成功ファクターと経営デザインシートとの融合 ◆

【登壇者】

(1) 講演

「IP ランドスケープの課題と経営デザインシート利用のメリット」

小林 誠

内閣府 知的財産戦略本部 構想委員会本会合 価値デザイン経営ワーキンググループ委員
株式会社シクロ・ハイジア代表取締役 CEO

「DXの課題と経営デザインシート利用のメリット」

宮下 修

日本知財学会 経営デザイン分科会幹事
株式会社スカラ最高戦略責任者、ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社
代表取締役社長、米国CFA協会認定証券アナリスト

(2) 座談会

パネリスト

小林 英司

内閣府・知的財産戦略推進事務局参事官

関 大地

内閣府 知的財産戦略本部 構想委員会本会合 価値デザイン経営ワーキンググループ委員
明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科兼任講師 公認会計士

小林 誠

宮下 修

モデレーター

鮫島 正洋

内閣府 知的財産戦略本部 構想委員会本会合 価値デザイン経営ワーキンググループ委員
弁護士法人 内田・鮫島法律事務所 弁護士

(敬称略)

※登壇者は変更となる場合があります

以上